

## 第71回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム11

「乳幼児健診で見つかる“ちょっと気になる子”

—線で行う評価と支援—

## 「ちょっと気になる」から始まる育児支援

平野 静香 (さいわいこどもクリニック)

## 1. はじめに—1か月児健康診査の重要性

1か月児健康診査は児の診察とともに養育者（特に母）の心理的問題の把握を行い、予防的介入を多職種で行う重要な健診であるが、公的補助は一部の自治体にとどまっていた<sup>1)</sup>。このたび、令和5年度予算にて5歳児健康診査とともに、1か月児健康診査が事業化された。1か月という乳児早期から小児科医が養育者と関わりを持ち（「伴走し」）、児や保護者の背景を知ることによって家族をより深く理解することができる。

## 2. 1か月児健康診査のポイント

1か月児健康診査の手順については成書に譲る。体重増加不良は栄養不足が多くを占めるが、器質的疾患の除外は必須である。養育者（特に母）の心理的問題の把握をし、多職種による予防的介入を行う。具体的には、健診時の質問が多岐にわたり数も多い場合は背景に育児不安が想起されるが、次の健康診査（4か月児）まで間が空くため、2か月・3か月時のワクチンなどの機会に再度親子と会い、困りごとや相談はないかなど、聴く時間を設ける。

## 3. 当院の取り組み

当院は東京都立川市にある小児科クリニックである。立川市は人口18万、出生数は1144（2023年）である。1か月児健康診査の公的補助はないが（2024年6月現在）、少しでも早く支援の必要がある家族と子どもを見つけ出し、継続的に気にかける取り組みを行っているので紹介する。

## ① ワクチンデビュー時の問診

2か月時のワクチンデビューは看護師が一对一で困りごとや相談がないか問診をしていたが、その質問は構造化されておらず、対応者によって内容に違いがあるという課題があった。そこで日本小児科医会作成「子育て支援のための問診票（乳児期前半用）『初めて来院する赤ちゃんの保護者の方へ』<sup>2)</sup>を2023年1月から使用した。子育てのこと、保護者本人のこと、きょうだいのことなどが含まれており、保護者と医師・看護師などが子育てなどに関する会話をするきっかけとして有用であった。問診票は10か月間・153名に使用したが子育てに対して不安や困難（「どう対処したらよいかわからない」「なんとも言えない」）を4割以上の家族が感じ、授乳に関する相談も2割の家族からあった。いずれも育児不安につながる可能性を持つため、ワクチンや健診でのこまめな声かけ・相談ばかりでなく、外来受診を勧めるケースもあった。その後、母子手帳の2か月時の項が新たに追加されたため、問診は2か月時の項を使用している。（2025年6月追記：その後しばらくは母子手帳を使用していたが、具体的な相談が少なくなったという声が看護師から上がったため、母子手帳に加えて、授乳について・睡眠について等、簡易的で自由記載欄もある問診票を作成し、2024年10月から使用している。）

## ② 「気になる」子どもたちに関する情報共有

一般外来を受診する「気になる」子どもたち・家族に関しては現場の感想にとどめず、リストを作成しクリニックを挙げて支援や共有を行っている。医師・看

護師ばかりでなく、心理師や保育士、事務から「気になる」と情報があげられ、初診問診票や診療情報提供書等の回覧、電子カルテへのマーキング、月1回のスタッフミーティングでの報告によって全体への共有が行われ、追加情報は担当者に集約される。「気になる」子どもたち・家族は、落ち着きがない・しつけが強い・親子の距離感に違和感がある、家族の不安が強い、などが挙げられるが、情報収集し経過を追う中で、市が以前から介入していることが判明したり、発達に支援や配慮が必要になったりすることもまれではない。現在100名ほどが対象であるが、(1)基礎疾患のある児 (2)児童相談所や子ども家庭支援センター介入のある家庭 (3)育児不安が強い家族 (4)保護者に精神疾患がある家庭に分け、それぞれに寄り添い、必要に応じて社会資源へのつなぎを行っている。

#### 4. 事例紹介

乳児のワクチンの際に平日昼間にもかかわらず必ず小学生のきょうだいが付き添っていた。「気になる」ためスタッフへの共有を行った。その後、保健センターから家族は支援に拒否的でありきょうだいを現認できない状況が続いていると連絡があった。新型コロナウイルス感染症が怖いとのことで小学校に行かせず、家族以外の人との接触は避けているとのことだったが、クリニックには頻繁に育児相談の電話があったため、

連絡はすべて看護師に集約し、こまめな受診を促した。来院時は来院へのねぎらいと成長を共に喜ぶ姿勢で一貫し、受診が遠のかないようにした。現時点ではきょうだいに関する話題は家族からはでてこないが、受診時は必ずきょうだいが付き添うため、意識してきょうだいにも声かけをしている。

#### 5. まとめ

1か月児健康診査が事業化されたが、1か月時に限らず乳児早期から継続的にかかわり、乳幼児以降であっても「気になる」子どもたち・家族について多職種で共有されることで細やかな対応が可能になる。児や保護者の背景を知り、信頼関係を築くことで、「ちょっと気になる」ことが生じても早期の支援につなげることができる。

#### 文 献

- 1) “令和4年度母子保健事業の実施状況等について”. 子ども家庭庁. <https://www.cfa.go.jp/press/66a3a5d2-fa87-4bab-9c28-361659051559> (参照 2025.06.30)
- 2) “子育て支援のための問診票 (乳児期前半用) 初めて来院する赤ちゃんの保護者の方へ”. 日本小児科医学会. <https://www.jpa-web.org/download.html> (参照 2025.06.30)